

世界史

I 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句または数字を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

封建制と郡県制、この二つの統治の方法は中国の歴史において幾度となくその是非が議論されてきた。その最初の事例が、前213年に秦の宮殿においてなされた博士淳于越と丞相 によるそれである。この議論を聞いた始皇帝が郡県制採用を決定して以降、中国歴代王朝は基本的に郡県制によってその領土を統治した。

^[1]この時の議論において、淳于越が「殷周両王朝が千余年の長きに亘って王者となれたのは、子弟・功臣を諸侯として封建し王朝の藩屏（防御のための壁）としたからである」と述べているように、封建制は殷周王朝、特に周王朝のそれがモデルとされてきた。いわゆる周の封建制である。なぜなら孔子が理想の人物とする周公旦がそれを実施したとされるからであろう。 家の基本文献である『春秋左氏伝』には周王一族を封建した時の具体的な状況も伝えられている。

一方の郡県制は、始皇帝によって採用されたと先に述べたが、実はこの時の議論で初めて採用されたわけではない。秦は東方六国から土地を奪取する度にその地を郡として中央派遣の官吏に統治させていた。郡県制は秦の東方進出に伴いその実施区域が順次拡大してゆき、統一完成によって全土で実施されるようになったのである。

陳勝・呉広の乱に始まる秦末の混乱を最終的に制した劉邦は、漢王朝の創建に際^[2]して軍功のあった諸将を諸侯王として封建した。その結果、漢帝国には郡県制によって統治される王朝直轄地と諸侯王の封地である王国とが併存することになった。そのため、漢初の統治体制は 制と呼ばれる。

諸侯王に封建された漢建国の功臣たちのほとんどは劉邦存命中に粛清され、その後には劉氏一族が改めて封建された。宗室同族の封建という点で周の封建制の理想とするところに近づいたはずであったが、実態は、諸侯王たちは近親ゆえに臣礼を欠くようになり、逆に王朝にとって脅威となっていった。かくて、王朝は諸侯王抑

制に踏み切ることになる。前154年に勃発した **D** の乱はこれに対する諸侯王の反抗であった。しかし最終的には鎮圧され、その結果、諸侯王は王国統治権を剥奪されて名目だけの存在となった。これ以降、 **C** 制は実質的に郡県制と変わらなくなった。前漢時代の封建には、郡単位で封建される諸侯王と県単位の列侯があったが、いずれも封地はあるものの統治権はなく、ただ、封地から上がる税収入を得るだけの存在であった。

このように漢代には既に形骸化していた封建制であるが、西晋に入ると王朝の藩屏という封建制本来の役割をもって復活する。 **E** 王朝からの形式的な禅譲を受けて西晋王朝を開いた司馬氏は、 **E** が宗室同族を諸侯王に封建しなかったことが司馬氏の権力奪取を許した原因と考え、一族を各地に諸王として封建した。西晋の諸王はその規模に応じて兵力を有しており、まさに、王朝の藩屏としての働きを期待されていたのである。

ところが、初代皇帝武帝が死去すると、武帝の皇后楊氏と第二代皇帝恵帝の皇后賈氏との間で展開された熾烈な権力闘争に藩屏たる宗室諸王も巻き込まれてしまう。西晋の宗室諸王は軍事力を持つと共に、中央・地方の重要官職にも就いていたため、朝廷での権力闘争と無関係ではいられなかったのである。かくて勃発した八王の乱をきっかけとして、西晋は **F** 年に滅亡した。王朝の藩屏とすべく封建された諸王が逆に王朝を滅亡へと導くことになってしまったのである。

このように本来の役割を果たせなかった封建制は、唐代になると食封制とよばれる制度の中にその面影を残すに過ぎなくなる。唐王朝では、王・郡王・国公・郡公・^[3] 県公・県侯・県伯・県子・県男の九等の爵が宗室や家臣に与えられた。公・侯・伯・子・男という周王朝で行われていたとされる諸侯の爵名が採用されているのは、周の封建制を意識したからであろう。唐の食封制では封地は支給されず、王以下はそれぞれ規定戸数分の税を受け取ることになっていた。現実にはその一部が支給されただけであったが、後に則天武后が政権を取ると、自身の近親者を中心に税の支給額を増加している。王朝の藩屏という封建制本来の機能をこの食封制の中に期待したからなのかもしれない。

- [1] 後代，郡が廃止されたことに伴い，郡県制に代わって州県制が施行されるようになるが，それは何王朝の時からか。
- [2] これより前，秦滅亡直後に，劉邦を初めとする諸将18人を各地の王に封建し，自らは西楚霸王と称したのは誰か。
- [3] これらの爵位は周辺諸国の君主にも与えられた。周辺諸国の君主に爵位を与えることで形成される国際体制を何というか。
- [4] 両税法実施以前の唐代の税制において，穀物で納付させた税を何というか。

(このページは空白)

Ⅱ 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句または数字を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

近年、「現代の起点」としての第一次世界大戦が注目されている。歴史学者の山室信一は、第一次世界大戦で初めて起こった現象や、第一次世界大戦によって引き起こされた歴史的な変化の中で、現在まで持続しているものが少なくないことを指摘している。例えば、今日のヨーロッパの移民問題や、ベトナム戦争やアフガニスタン戦争でも問題となった戦争神経症の問題、戦争の世界化を可能にした無線通信をはじめとする通信網の発達などである。

第一次世界大戦は、戦争遂行のために国のあらゆる軍事力・経済力・人的資源が動員される であった。軍人だけでなく国民全体が航空機による空襲や砲撃の対象となり、戦争の長期化とあいまって、第一次世界大戦は1000万人近い非戦闘員の死者を出した最初の戦争となった。戦後には、戦争により減少した大量の生産人口を移民によって補充したが、そのことが今日のヨーロッパの移民問題にもつながっている。

また、第一次世界大戦では、戦車や航空機、潜水艦といった新しい兵器や、細菌^{〔1〕}や毒ガスなどの生物化学兵器^{〔2〕}も初めて大量に使用された。長時間にわたり絶えざる緊張を強いられる塹壕戦の経験や、巨大な爆発音や砲撃に身をさらされる過剰なストレスの蓄積、毒ガスへの恐怖などから、生き残った兵士の間では第一次世界大戦後もなお「生き埋めノイローゼ」や「ガスノイローゼ」などと呼ばれる戦争神経症が多発し、精神的な後遺障害に悩まされる兵士も少なくなかった。現在でいう心的外傷後ストレス障害（PTSD）が問題化したのも、第一次世界大戦からだったのである。

さらに、1837年にアメリカ人の発明家 により電信符号を使った送信方法が実用化され、1901年にイタリア人電気技術者の が大西洋を横断した無線電信に成功して以降、電信網は世界中にはりめぐらされるようになった。第一次世界大戦において、オーストリアの に対する宣戦布告が歴史上初めて電報によって伝えられたことは、電信網のグローバル化のはじまりを象徴するできごとであった。

ところで、ヨーロッパを主戦場とした第一次世界大戦を「世界大戦」と見る認識は、中国でも早くから登場していた。中国では、開戦からわずか5日後の上海の有力紙『申報』に、「日本がひとたび加われれば、欧州一州の大戦にとどまらず、世界の大戦と化すだろう。将来、世界の大戦と化すというだけではない。現在すでに世界はその影響を受けている」という時評が掲載された。中国政府は、欧米各国の租借地や駐屯軍を抱える中国の国内で戦闘が起こることを避けるため、大戦開始当初に局外中立を宣言していた。

それにもかかわらず、E 年に日本は日英同盟を根拠にドイツに宣戦布告して第一次世界大戦に参戦し、^[3]山東省のドイツ租借地である F を攻撃、山東半島に上陸して、2ヶ月後には F と山東鉄道全線を占領した。さらに、ドイツの山東権益の譲渡、日本人顧問の雇用、日本製武器の購入などを求めた G を中国に受諾させた。このように、中国の意図とは無関係に、日本の参戦によってアジアに戦場が広がったことから、この戦争は「世界戦争」となったのである。

- [1] イギリス軍がはじめて戦車を投入したことで知られ、1916年にイギリス・フランス軍とドイツ軍の間であったフランス北部の戦いを何というか。
- [2] このような生物化学兵器の開発と使用が拡大し、第二次世界大戦期には原子爆弾が開発され、広島と長崎に投下された。核兵器は、その破壊力と残虐さから人類自らの破滅をもたらすものとして、第二次世界大戦後に使用禁止のための国際的な取り決めがいくつもつくられた。その一つとして、1968年に、アメリカ・ソ連・イギリスを中心に調印され、核兵器保有国の非保有国への提供や、非保有国の核保有を禁止した条約を何というか。
- [3] 日本の参戦の結果、戦後に締結されたヴェルサイユ条約により、赤道以北が日本の委任統治領となった地域はどこか。

Ⅲ 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

近世ヨーロッパで宮廷文化が成立するに際して、ルネサンスを生み出したイタリアは大きな役割を果たした。教皇領と小国に分かれていたイタリア半島は、15世紀末から16世紀半ばにかけて断続的に戦われたイタリア戦争で、フランスのヴァロワ家と神聖ローマ帝国の皇帝位を持つハプスブルク家の領土争いの戦場となった。フランスは1559年に締結された **A** でイタリア半島に対する権利を放棄し、戦争は終結した。ルネサンスの文化はイタリア戦争を通してフランスに広まることになった。^[2] イタリア戦争の最中、教皇庁ともハプスブルク家ともつながりのあるフィレンツェのメディチ家から、のちのアンリ2世に嫁いだ **B** は、料理やバレエを始めとする文化や芸術をフランス宮廷にもたらし、それらを保護することで、宮廷文化が発展する礎を作った。

16世紀後半のフランスは、旧教と新教の対立から起こった **C** に長年苦しむが、17世紀には中央集権化によって国内を統一する **D** を確立し、イタリアから受け継いだ華やかな宮廷文化を成熟させた。フランスの古典主義文学は、ルネサンスの文芸にみられる均整や洗練などの特徴を発展させたものといえる。イタリアで誕生したオペラもこの時代、リシュリユーの後を継いだ宰相 **E** の時代にフランスにもたらされた。16世紀後半からイタリアで発祥した **F** 美術は、太陽王が造営させたヴェルサイユ宮殿において **D** の王権の象徴となった。

太陽王の死後即位したフランス国王 **G** の時代には、絵画や室内装飾において曲線を多用した繊細で優雅なロココ様式が流行し、^[4]ヨーロッパ中で模倣された。たとえば、オーストリア大公のマリア=テレジアが内部を改装させた、ウィーンの **H** 宮殿にはロココ様式の装飾が取り入れられている。

イタリア、フランス、プロイセン、神聖ローマ帝国などにあるヨーロッパの宮廷を父に連れられて巡り、宮廷音楽家の地位を目指したのが、オーストリアのザルツブルク出身の作曲家 **I** である。その代表作のひとつ、オペラ『フィガロの結婚』は、フランスの劇作家ボーマルシェの喜劇を原作とするイタリア語台本に曲をつけた作品であり、マリア=テレジアの息子 **J** が神聖ローマ帝国皇帝の時

代、1786年にドイツ語圏のウィーンで初演された。この事実は当時のヨーロッパ諸国の宮廷文化が密接な関係にあったことを示している。しかしながら、特権階級の貴族が下僕にやり込められる『フィガロの結婚』の物語は、ヨーロッパの華やかな宮廷文化が、後に起こったフランス革命と共に終焉を迎えることを予告していたともいえるだろう。^[5]

- [1] 1527年に神聖ローマ帝国の軍隊がイタリア半島に侵攻してローマを略奪し、イタリアのルネサンスを衰退させる原因を作った。このときの神聖ローマ皇帝は誰か。
- [2] フランソワ1世から晩年に招かれてフランスに身を寄せた、「モナ=リザ」を描いたことで知られる人物は誰か。
- [3] 1572年にサンバルテルミの虐殺が起きたが、この時のフランス国王は誰か。
- [4] フランスのロココ芸術を代表する画家で、「シテール島への巡礼」(1717年)を描いた画家は誰か。
- [5] 聖職者、貴族、平民それぞれの代表が協議する身分制議会が、1789年に財政問題を巡って、百数十年ぶりに開催された。しかしそこでは身分の対立が露呈し、フランス革命のきっかけとなった。この議会を何というか。

Ⅳ 次の文章を読んで空欄に最も適切な語句を記入し、下線部についてあとの問いに答えよ。

建国当時に後進的農業国だったアメリカ合衆国は、19世紀末に植民地を保有する「帝国」となった。このような急成長を遂げたアメリカの対外関係を概観する。

1776年にイギリスからの独立を宣言したアメリカは、当時イギリスと対立していたフランスやスペインなどに助けられて1783年の講和条約によって独立を果たした。しかし1789年にフランスで市民革命が起こった後、イギリスの [A] 首相の呼びかけで [B] を結成した諸国の干渉により革命戦争が勃発すると、[C] 大統領はヨーロッパの紛争に巻き込まれないために、どの国とも長期的な同盟関係を結ぶべきでないと訴え、中立政策を採用した。その後、アメリカ大陸の西部開発を重視する [D] 大統領が、フランスがスペインからルイジアナ地域を譲り受けたことに危機感を抱き、1803年に [E] と交渉して1500万ドルでルイジアナを購入した。その結果、アメリカの領土は倍増した。一方、[E] 戦争中にスペインが一時フランスに征服されたため、スペイン領植民地であった中南米地域は1810年代から20年代にかけて続々と独立を宣言した。しかし [E] の失脚後、スペインが中南米に再干渉する姿勢を示すと、アメリカの [F] 大統領は1823年にアメリカがヨーロッパの問題に干渉しない代わりに、ヨーロッパ列強もアメリカ大陸に干渉しないことを求める [F] 宣言を発表した。この宣言はヨーロッパ諸国との非同盟政策の再確認という意味も持ち、アメリカの「孤立主義」外交の原点となった。

アメリカ大陸における領土の膨張を目指すアメリカは、ルイジアナ購入に続いてスペインからフロリダも手に入れたうえ、1836年にメキシコから独立を宣言していた [G] 共和国を併合した。さらに1846～48年の [H] 戦争にも勝利してニューメキシコやカリフォルニアなどの広大な領土を獲得した結果、アメリカは太平洋にも接する大陸国家となった。また1840～42年のアヘン戦争によって香港などがイギリスに割譲された結果、それ以前から行われていた中国貿易への関心がアメリカでもさらに高まり、その中継点として日本を開国させるため、1853年に [I] 提督が率いる艦隊を日本に送った。しかしその後、アメリカの関心はむしろ奴隷制度などを巡る南部と北部の対立など国内情勢に集中し、1861年には南北戦争に至っ

た。北部が勝利したのちアメリカは急速に重工業化したものの、19世紀後半のアメリカでは引き続き大陸内の領土拡大が優先され、対外的な関心は低調であった。もちろん1867年にロシアから [J] を購入するなど積極的な膨張政策を推進する動きもあったが、スエズ運河を建設したフランス人の [K] が1881年にパナマ運河の建設を開始したおりには、アメリカは静観する姿勢を見せた。

このような自制的な外交姿勢を対外的に大きく転換させたのが、1898年に勃発した米西戦争であった。その直接の契機は、スペインの植民地であった [L] の独立運動をアメリカが支援し、これにスペインが反撃したとされることだった。まず、[L] に進出していたアメリカ資本が権益の保護を求めたことと、1890年の国勢調査で [M] の消滅が宣言され、大陸内での領土拡大の限界が意識されはじめたことが当時の世論に影響した。さらに当時のアメリカは急速な重工業化によりイギリスを抜いて世界一の工業国となり、海外市場の必要性が強調されはじめていた。この米西戦争の結果、アメリカは [L] を事実上の保護国とした上で、フィリピン、グアム、プエルトリコを併合し、ハワイ共和国を準州とし、植民地を有する「帝国」となった。

- [1] 1848年にカリフォルニアで発見されたある鉱物によって世界中から人々が殺到し、人口が急増した。その現象を何と呼ぶか、答えよ。
- [2] アメリカの太平洋岸と大西洋岸を結ぶために建設された鉄道の名前を答えよ。